

# 第3学年 国語科 学習構想案

日 時 令和8年7月2日(木) 第5校時  
 場 所 3年生教室(2棟2F)  
 指導者 教諭 芹口 真由美

## 1 単元構想

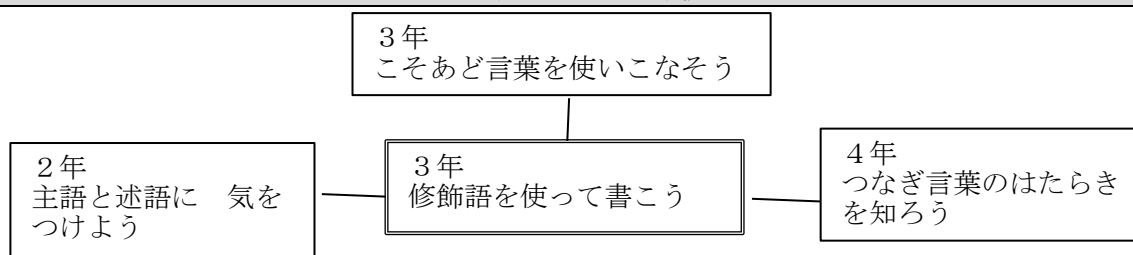
単元名	修飾語を使って書こう		
単元の目標	(1)文の中の「主語」と「述語」の関係を理解し、言葉のつながりに注意しながら、文を詳しくする「修飾語」の働きを理解することができる。 (2)相手や目的を意識した表現になっているかを確認、文を整えることができる。 (3)言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係について理解している。(1)カ)	①相手や目的を意識した表現になっているかを確認、文を整えている。(B(1)エ)	①進んで主語述語の関係や修飾語の働きについて理解し、学習の見通しをもって、クイズ作りをしようとしている。
単元終了時の児童・生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
文章を書くときに、主語・述語を意識し、修飾語を正しく使いながら、文を組み立てることができる児童。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
「Sブロックのみんなに運動会の様子について、修飾語をどのように使えば、わかりやすく伝えることができるだろうか。」		文の骨組み(主語・述語)とそれを詳しくする言葉(修飾語)との関係(つながり)に着目し、自分がイメージしたことを伝える文を書くことを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画(3時間取扱い 本時1/3)			
過程	時間	学習活動(「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1/2 本時	○主語と述語だけの文に、修飾語を付け足していくことで自分が描いた絵に近づくことを体感し、修飾語を理解する。	★【思①】(方法:カード) ○相手や目的を意識して、修飾語を使った文を作っている。
	2/2	○教科書に提示された写真の様子を、修飾語を使って詳しく書く。	★【知①】(方法:ワークシート) ○修飾語の役割を理解して、適切な修飾語を使った文を書いている。
二	1	○Sブロック集会で発表するために、運動会の様子について修飾語を使ってクイズを作る。	★【態①】(方法:ワークシート) ○修飾語を使ってクイズを作ろうとしている。

## 2 単元における系統及び児童・生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)
本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の内容(知識及び技能)の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、にあたる。
教材・題材の価値
本教材は、文の骨組みである「主語」と「述語」の関係を踏まえ、それらを詳しく説明する「修飾語」の働きを理解し、実際に文を豊かに表現する力を養うものである。小学3年生の児童は、自分の頭の中にあるイメージ(主観)を他者も同じように共有していると思い込みがちである。本教材には、主語・述語だけの文では読み手との間に「イメージのズレ」が生じることに気づかせ、事象をより細かく捉える「認知の解像度」を上げる価値がある。「いつ」「どこで」「どんな」「どのように」といった修飾語を自ら「選択」する活動を通して、語彙の広がりや表現の多様性を実感させることができる。また、文章記述のテクニックにとどまらず、「読み手(相手)が具体的にイメージできるように書く」という「相手意識」を育むためのコミュニケーションの視点からも、価値の高い題材である。
さらに、本実践ではデジタルネイティブである児童の発達段階に合わせ、AI(生成AI・対話型AI)を「客観的な読み手」の疑似モデルとして導入する。これにより、言葉の不足によるイメージのズレや、

修飾語による表現の変容を視覚的・体感的に捉えさせ、主体的に文章を推敲する態度を効果的に育成することができる。

本単元における系統



児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（町学力調査の結果から）（3年1組6人中）

調査内容	概ね（6割～8割程度）	十分（8割以上）
言葉の学習 助詞の使い方を理解している。	1	5
身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	0	6
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	0	6

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
国語の学習が好き。	6	0	0	0
課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	5	1	0	0
自分の考えを進んで伝えたり、友だちの考えを聞いたりしている。	4	2	0	0

■考察

意識の状況調査から、本学級の児童6名は、全体的に国語科の学習に対する関心が高く、進んで発言したり課題に取り組んだりする意欲的な姿勢が見られる。

基礎・基本の定着状況から、1年時における言葉の学習（語彙や基本的な文のきまり）については、6名とも概ね良好に習得している。2年時の学力調査の公式な結果は現時点で未確定であるものの、日頃の単元テストや見取りにおいて、「主語と述語」の学習は6人中5人が8割以上の高い理解度を示しており、文の骨組みを捉える基礎的な力は十分に身に付いている。一方で、1名の児童においては、主語と述語の関係性の把握にやや不安が見られる。そのため、主語・述語に言葉を肉付けしていく「修飾語」の学習において、言葉のつながりに迷ってしまうことが想定される。

本時においては、少人数学級の強みを活かし、全員の知的好奇心と意欲を引き出す「生成AIを用いた視覚的な課題（言葉のトッピング）」を設定する。言葉を変化させる楽しさを通して主体的・協働的な学びを促すとともに、不安の見られる児童に対しては、個別に支援を行うことで、児童自らが言葉の働きを確実に見出し、習得していけるようにしたい。

### 3 指導に当たっての留意

<研究の仮説及び視点>

自立した学習者の育成  
～子どもがわくわくする PBL 単元構想を通して～

#### 1) 子どもがわくわくする PBL 単元づくり

○「高森ふるさと学」並びに「各教科の学習」について、子どもも授業者もゴールを目指して課題を解決したいというわくわくするような課題解決型学習（PBL）の単元を構想し、実践をすれば、生徒が自ら課題を見出し、その課題を解決するために、意欲的に見通しをもって各教科の見方・考え方を働かせ、自分なりに（対話を含めた）個別最適な学び等の学習を通して最適解を考え、提案することができるであろう。

- ・視点：①目標の明確化 ②課題設定のための動機づけ ③課題解決の計画と実行 ④プロジェクトの発表 ⑤プロジェクトの振り返り

#### 2) 朝活動の時間・放課後時間の活用・家庭学習の充実

○放課後の自由学習時間をはじめとした学習時間・機会の確保し、自ら計画を立てたり、友人や先生に教えてもらったりしながら、児童生徒が自分の得意や苦手を知り、自分に合った学び方を見出すことができるだろう。  
○家庭においても児童生徒が自分の目標達成に向けて自ら学習計画を立て、学習を進める経験を積むことで、自分に必要な学習内容、学習時間を設定し、自ら取り組む力を高めることができるだろう。

## 1) 子どもがわくわくする PBL 単元づくり

(視点①目標の明確化)

○生成 AI を活用することで、積極的に自分のイメージしたことが伝わるように、修飾語を使った文づくりができるようにする。

(視点④プロジェクトの発表)

○Sブロック集会において、運動会の写真を使ったクイズを出題するという発表の場を設定することで、少しでも面白いクイズを出したいと思わせながら取り組めるようにする。

## 2) 朝活動の時間・放課後時間の活用・家庭学習の充実

○日常活動で取り組んでいる日記に、学習した修飾語を色で囲むなどの活動を取り入れることで、学んだことを意識しながら家庭学習に取り組み、定着につなげられるようにする。

### 【板書計画】

<p>Sブロック集会で、クイズ大会をしよう。 運動会の様子を、主語・述語に修飾語をトッピングして</p>	<p>主語と述語だけでは、自分が伝えたい文にならないが、修飾語を使うことで伝えたい文になった。</p>	<p>児童⑥ 「花が さきました」 児童⑤ 「花が さきました」 児童④ 「花が さきました」 児童③ 「花が さきました」 児童② 「花が さきました」 児童① 「花が さきました」</p>	<p>修飾語を使って書こう 「花がさきました。」の言葉をかみはずつかって、自分の絵に近づくようにトッピングして文をへんしんさせよう</p>
----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------

### 【ICT活用計画】

<p>例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等</p>
<p>○生成 AI を活用した児童主体の学習</p>

### 【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

<p>例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む</p>
<p>○令和7年度熊本県学力・学習状況調査 小学校4年国語 大問3 中間(1)(2)</p>

#### 4 本時の学習

##### (1) 目標

「花がさきました。」という主語と述語だけの文に修飾語を付け加え、生成 AI を活用し、自分が伝えたい「花がさきました」のイメージに近い文を作ることができる。

##### (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	7分	<p>1 めあてを確認する。</p> <p>① 「花がさきました。」の主語と述語について確認する。 ◇主語と述語を思い出しました。</p> <p>② 教師が生成 AI に「花がさきました。」と伝え、AI が作成した画像を見る。 ◇イメージしたものと違う。</p>	<p>○課題やめあてなど声に出して読ませる。 ○主語と述語を復習する。</p> <p>○生成 AI を活用し、学習への意欲を持たせる。 ○事前に絵を描かせておく。</p>
		<p><b>【めあて】「花がさきました。」の言葉を必ず使って、自分の絵に近づくように、トッピングをして文をへんしんさせよう</b></p>	
展開	28分	<p>2 詳しく伝える文を考える。</p> <p>① 自分の絵が伝わるように、主語述語の文に、付け加える文を考える。 ◇「赤い花がさきました。」 「たくさん、花がさきました。」</p> <p>② 生成 AI に伝える。 ◇自分の絵に近づいた。 ◇「どこに」「どれくらい」を伝えたい。</p> <p>③ 修飾語について知る。 ◇初めて知りました。</p> <p>④ 再度詳しく伝える文を考え、友だちがどんな修飾語を付け足したのか考える。 ◇「運動場に赤い花がたくさんさきました。」</p> <p>.....  <b>【期待される学びの姿】</b>            .....            自分の絵に近づくように、詳しくする言葉を自ら考えて文を作る姿            .....</p>	<p>○カードに個人で文を考える。 ○生成 AI にイメージ通りの絵を描かせるためには、どの言葉（主語・述語）に、どんな修飾語（いつ・どこで・どんな・どれくらいなど）を使えばよいかを考えさせる。</p> <p><b>【具体的評価規準】観点【思①】</b> ○主語・述語だけの文に修飾語を付け加え、自分が伝えたいイメージに近い文を作っている。（方法：カード）</p> <p><b>【到達していない児童への手立て】</b> ○「どんな花」や「どのくらい」などの言葉をかけて詳しくする言葉を導き出す。  ○考えた文を発表し合い、どの絵のことなのか考えさせる。</p>
終末	10分	<p>3 まとめと振り返りをする。</p> <p>① 修飾語の役割と修飾・被修飾の関係を知る。</p> <p>② 振り返りをする。 ◇今日の学習で、修飾語を使うと主語と述語の文が詳しくなってイメージしたことが伝わりやすいと思いました。</p>	<p>○修飾・被修飾の関係には触れるだけにし、次時につなげる。</p>
		<p><b>【まとめ】</b> 主語と述語だけでは、自分が伝えたい文にならないが、修飾語を使うことで、伝えたい文になる。</p>	